

目指す学校像	笑顔あふれ 瞳かがやく子の育成 ～あふれる笑顔、かがやく瞳～
--------	--------------------------------

重点目標	1 自他のよさを伸長し、自立・自走する教育のプロを育成する。 2 丁寧な児童理解にもとづく積極的な生徒指導を推進する。 3 保護者・地域とともに自ら考え行動する児童を育成する。 4 自ら考え、主体的に学ぶ児童を育成する。 5 学校安全体制の充実を図る。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標								実施日令和7年2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○児童のよさに目を向け、それらを伸長しようとする意識は、定着している。 ○職員個々のよさに焦点を当てたコミュニケーションを進めたことで自らのよさを前面に出す姿が見られる。 ○新たな教職員研修をスタートさせた。 <課題> ○継続的に一人ひとりのよさに目を向け、認め、褒める姿勢でよさを伸長する取組の一層の定着を図る。 ○教職員研修に外部講師を招聘し、資質及び指導力を向上させる。 ○会議等の精選に努める。	・自他のよさを伸長し、自立・自走する教育のプロを育成 ・教職員研修の充実による指導力の向上	1 自他のよさを伸長することを学校経営方針に位置付け、年度当初に職員に周知するとともに、適時、確認をし、意識化を図る。 2 外部講師(指導主事・大学教授)を招聘した研修会を行い、授業の工夫・改善を行う。 3 会議等の精選に努め、職員が授業準備や児童理解に時間を使い、よさの伸長に注力できるようにする。	1 学校経営方針に該当項目を位置付けたか。また、意識化を図る取り組みをしたか。 2 外部講師を招聘した研修会を実施し、授業の工夫・改善に取り組むことができたか。 3 学校評価アンケートにおいて、関連項目への肯定的な回答が80%以上となったか。	1 学校経営方針に該当項目を位置付け、職員会議で説明をすることで意識化を図った。 2 教育委員会の指導主事、大学准教授に加え、企業役員を指導者として招聘し、授業の工夫・改善及び児童とのかかわり方について研修を進めることができた。 3 学校評価アンケートにおいて、教職員研修の充実に関する項目及び会議の運営に関する項目は、ともに肯定的な回答が80%であった。	A	・学校経営方針への継続的な位置付けに加え、毎学期、最初の職員会議での周知を来年度の課題とする。 ・学び続ける教師を念頭に定期的な校内研修を充実させるとともに、外部講師を招聘した研修も実施することで教育のプロを育成する。 ・会議の精選は進んでいるが、開催する会議が延長することがあるため、会議の運営方法等について検討していき、授業準備に充てる時間の確保に努める。	・年間を通して、よりよい授業にしていこうと努力している様子が伺えた。 ・新しいものに取り組んで行くことも必要であるが、一方で職員の働き方も気になる。職員に過度な負担が生じないように働き方改革も進めてほしい。	
2	<現状> ○定期開催の児童理解部会、適宜開催のケース会議等により情報を教職員全体で共有している。 ○より丁寧な児童理解、教育相談、保護者面談等を実現するため、会議や事務処理を見直し、放課後の時間の確保に努めている。 <課題> ○組織的に対応することで児童が安心して登校できるようにする。 ○児童へのアプローチの仕方など、すべての職員が同じスタンスで行えるようにする。 ○会議や事務処理の見直しや改善に引き続き取り組む。	・丁寧な児童理解にもとづく積極的な生徒指導の推進	1 学年内教職員の情報交換を密にし、迅速に適切な児童対応ができるようにする。 2 児童理解に関する部会を定期的に行い、児童へのアプローチの仕方など、すべての職員が同じスタンスで行えるようにする。 3 通知票の発行回数2回の継続や集金方法の改善により、職員が児童理解や生徒指導、教育相談、保護者との連携に時間を使えるようにする。	1 学年会において、情報交換の時間を設け、児童への対応について検討することができたか。 2 児童理解部会を定期的に開催し、必要な情報を学校全体で共有することができたか。また、関係機関との連携も含め、個別の対応について検討することができたか。 3 通知票の発行回数2回の継続と集金方法の改善に取り組むことができたか。	1 学年会を週1回設定し、情報交換の時間を確保した。また、緊急度の高い内容については、管理職も交えて、速やかに対応を検討することができた。 2 児童理解部会を月1回開催し、生徒指導及び教育相談についての課題や対応を検討した。また、個別案件や関係機関との連携についても必要に応じて全職員で情報を共有し、組織的な対応を行った。 3 通知票の発行回数や集金方法について保護者の皆様に御理解をいただくことができた。このことで、長期休業前などにも学級担任が子どもと向き合う時間に多少の余裕が生まれた。	A	・学年会の週1回設定を継続し、課題や懸案事項への対応を担任だけでなく、学年単位で行っていくようにする。 ・児童理解部会の月1回開催を継続し、学校全体で生徒指導及び教育相談の課題を共有し、対応を検討する。 ・通知票の発行回数2回や今年度導入した集金方法を継続し、丁寧な児童理解を行えるよう、子どもと向き合う時間を確保していく。	・取組を継続し、組織的な対応が一層充実するようにしてほしい。 ・子どもと向き合う時間の確保は、大切であると考える。	
3	<現状> ○学校運営協議会・SSN協議会ともに企画・運営・まとめについて計画的に進めることができている。 ○保護者や地域に向けて、児童の様子や学校の活動の様子を様々な手段で発信している。 <課題> ○熟識によりいただいた示唆・ニーズについて、学校としての取り組み方を検討し、実行できるようにしていく。 ○児童数及び学級数の増加への対応を丁寧につつ、来校による授業参観や安全性を考慮した情報発信を適時行う。	・学校運営協議会・SSN協議会を軸とした、学校と地域の一体感を醸成 ・保護者・地域への迅速・丁寧な対応	1 学校運営協議会を軸に学校経営及び運営の課題について、学校・保護者・地域が一体となって改善していく。 2 様々な立場の方に委員をお願いすることで幅広く連携・協力体制を築く	1 学校運営協議会を年間3回開催し、学校経営及び運営について、熟議できたか。 2 学校運営協議会委員を様々な立場の方に依頼し、連携・協力体制を充実させることができたか。	1 学校運営協議会を計画どおり年間3回開催し、学校と地域が一体となった児童の育成について委員の皆様に熟識していただくことができた。 2 立地を生かして、多方面の方々に学校運営協議会委員となっただけでなく、様々な面で連携・協力をすることができた。	B	・多方面の方々に学校運営協議会やSSN委員となっただけでなく、恵まれた環境を生かし、会議等でいただいた御意見を参考にしながら児童の学校生活の充実を努める。	・それぞれの立場で来年度も協力していきたい。 ・教職員が授業に専念できるよう、地域や家庭が協力できることは、積極的にやっていく。	
4	<現状> ○ICTの活用について、定着が図られており、授業の中で使用する機会も多い。 ○学習に前向きに取り組む児童が多い。 <課題> ○ICTを一つのツールとして使用し、児童が考え・児童同士が学び合う授業を行い、主体的に学ぶ姿勢を育み、基礎基本の定着を図る。 ○アンケートの実施及び結果の活用により、実態に即した授業改善を行う。	・授業の工夫により、主体的に学ぶ児童を育成。	1 学びのポイント「J・L・Y・K」の実践、及び、スクールダッシュボードに蓄積されるデータの活用により、授業改善を進め、主体的に学ぶ児童を育成する。 2 学びの指標の学習者用アンケートと授業者用チェックリストを活用し、授業の振り返りと改善に取り組む。	1 学びのポイント及びスクールダッシュボードを活用し、授業改善を進めることができたか。 2 学びの指標の学習者用アンケートを年2回実施し、授業者用チェックリストと併せて活用し、授業の振り返りを行うことができたか。	1 学びのポイントを活用した授業改善を進めたことで、学校評価において、「授業中は一生懸命学習している」に肯定的な回答をした児童が96%となった。 2 学びの指標の学習者用アンケートを年2回実施した。授業者用チェックリストと併せて活用し、振り返りを行い、授業の工夫・改善に取り組んだ。	B	・スクールダッシュボードの有効活用については、今後の課題と捉えており、さらに検討を進め、主体的に学ぶ児童の育成に取り組んで行く。 ・アンケートの実施と併せて、職場内のOJTを推進し、授業の工夫・改善をより具体的なものとしていけるようにする。	・学びの連続性を考え、中学校においても小学校でどのような学習をしてきているのか把握できるようにしたい。 ・課題点については、引き続き、検討を進めてほしい。	
5	<現状> ○児童数増加により、仮設校舎を建設中である。 ○今後、令和6年度中に仮設給食室の建設も予定されている。 <課題> ○仮設校舎の使用、仮設給食室の工事に際して、安全対策を講じ、事故防止に努める。	・仮設校舎の使用に合わせ、安全対策を講じる。	1 児童の行動を念頭に置いた安全対策を講じる。 2 仮設校舎完成時のみならず、使用開始後にも実際の児童の様子を考慮した安全対策を適時講じる。 3 仮設給食室建設に係る工期等を児童・保護者・地域へ周知。	1 児童の行動を念頭に置いたルール作りができたか。 2 実際に使用を開始した後も安全対策を講じるための話し合いの場を設定できたか。 3 仮設給食室の工期等を学校だより等で周知できたか。	1 仮設校舎について、避難経路の設定・周知を円滑に行えた。 2 使用開始後、安全対策を講じるべき箇所があったため施工業者と連携をし、改善を図った。 3 仮設給食室建設について、保護者・地域へ学校だよりで適宜、情報提供を行った。	A	・令和7年度は、仮設給食室の運用が始まるため、円滑に給食が提供できるよう準備を進めていくことが課題である。 ・課題は多々あるが、運動会の開催について、検討を進めていく。	・安全な給食提供に努めてほしい。 ・校庭の使用方法については、引き続き、課題意識をもって検討を進めてほしい。	